

関係各位

高知県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について

令和 2 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号を送付します。

令和 2 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

- 1 病害虫名 インパチェンス類べと病 (*Plasmopara obducens*)
- 2 発生物種 インパチェンス
- 3 発生経過

令和 2 年 3 月 6 日、県内のインパチェンスで、葉の黄化や葉裏に白いかびが生じる症状が確認され（写真 1、2）、病徴と病原菌の形態的特徴から *Plasmopara obducens* によるべと病であることが判明した。

本病害は平成 22 年 6 月に国内で初めて確認されており、平成 24 年に島根県、平成 26 年に神奈川県、平成 28 年に広島県から特殊報が発表されているが、本県での発生確認は初めてである。

- 4 形態・生態

葉裏が白いかびに覆われ、葉が黄化する（写真 1、2）。病徴が進展すると落葉、枯死に至る。病原菌は葉裏の気孔から分生子柄を伸長して外表に現れ、樹枝状に分岐後、円錐状の先端部に卵形の分生子を形成する（写真 3）。

- 5 防除対策

- （1）本病は分生子により空気伝染するため、罹病株は速やかにほ場外へ持ち出し、土中に埋没処理する。
- （2）インパチェンスをはじめとするツリフネソウ属を宿主としており、付近に他の宿主がないか注意する。
- （3）現在のところ、本病を対象とした農薬は登録されていないため、耕種的防除を徹底する。

お問合せは、病害虫防除所（TEL：088-863-1132）または環境農業推進課（TEL：088-821-4861）まで



写真1 葉の黄化症状



写真2 葉裏に生じた白色のかび

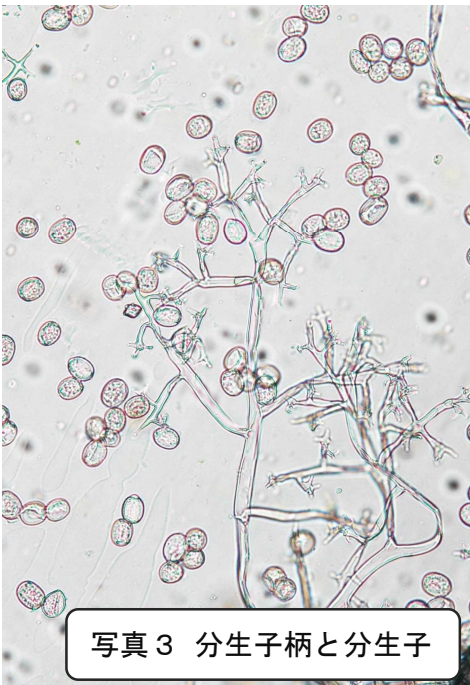


写真3 分生子柄と分生子